

日米の「動的防衛協力」について

平成24年7月

統合幕僚監部 防衛計画部

日米の「動的防衛協力」の取組について

1 趣旨

日米の「動的防衛協力」の取組に係るこれまでの検討状況について、報告するもの。

2 検討の状況等

(1) 検討部会の設置

日米安全保障協議委員会(2+2)共同発表(平成24年4月27日)を踏まえた日米の「動的防衛協力」の具体的協力等について、4幕による一体となった具体案の検討を行うために統幕防衛課主幹で「日米の動的防衛協力検討部会」を設置し検討を開始

(2) 検討会の実績

- 5月18日(金) 課長級検討会(4幕の認識の共有、検討部会の設置、論点の絞り込み、今後の予定等)
- 5月24日(木) 課長級検討会(日米の動的防衛協力の取組、沖縄本島の陸自部隊の配備等)
- 6月4日(月) 班長級検討会(グアム、テニアン及びパガンの共同使用等)
- 6月8日(金) 内幕課長級懇談(日米の「動的防衛協力」全般の意見交換、参加者:黒江防政局次長、防政課長、日米協力課長、4幕防衛課長)
- 6月8日(金) 課長級検討会(グアム、テニアン及びパガンの共同使用等)
- 6月15日(金) 課長級検討会(ISR(グアムにおける警戒監視等の活用)等)
- 6月22日(金) 課長級検討会(ISR(グアムにおける警戒監視等の活用)等)

(3) 検討の状況

- 日米の「動的防衛協力」の取組について(別紙第1)
- 沖縄本島における恒常的な共同使用に係わる新たな陸上部隊の配置(別紙第2)
- グアム、テニアン及びパガンにおける共同使用・共同訓練(別紙第3)
- グアムを拠点とした日米共同による高高度滞空型無人機の活用(別紙第4)

3 今後の予定

7月13日(金) 課長級協議(ワシントン)

8月中旬 課長級協議(ハワイ)

爾後 引き続き日米間で協議

(グアム等で共同使用する訓練場の整備に関する具体的協力の検討は本年末までに特定)

日米の「動的防衛協力」の取組について

日米の「動的防衛協力」の取組の全体像

背景

我が国を取り巻く安全保障環境

中国の軍事戦略(アジア太平洋地域)

対中防衛の考え方

大綱・構造改革委員会(中間報告)等を踏まえた検討

今後強化すべき機能及び課題

広域・常続的な情報収集・警戒監視体制

迅速かつ柔軟な機動展開能力

航空・海上優勢のための作戦能力

基地の抗たん性及び使用可能な基地・施設

島嶼防衛のための水陸両用戦を含めた各種戦能力

BMD能力

宇宙・サイバー分野への対応

平素からの関与(Peacetime Engagement)に関する活動

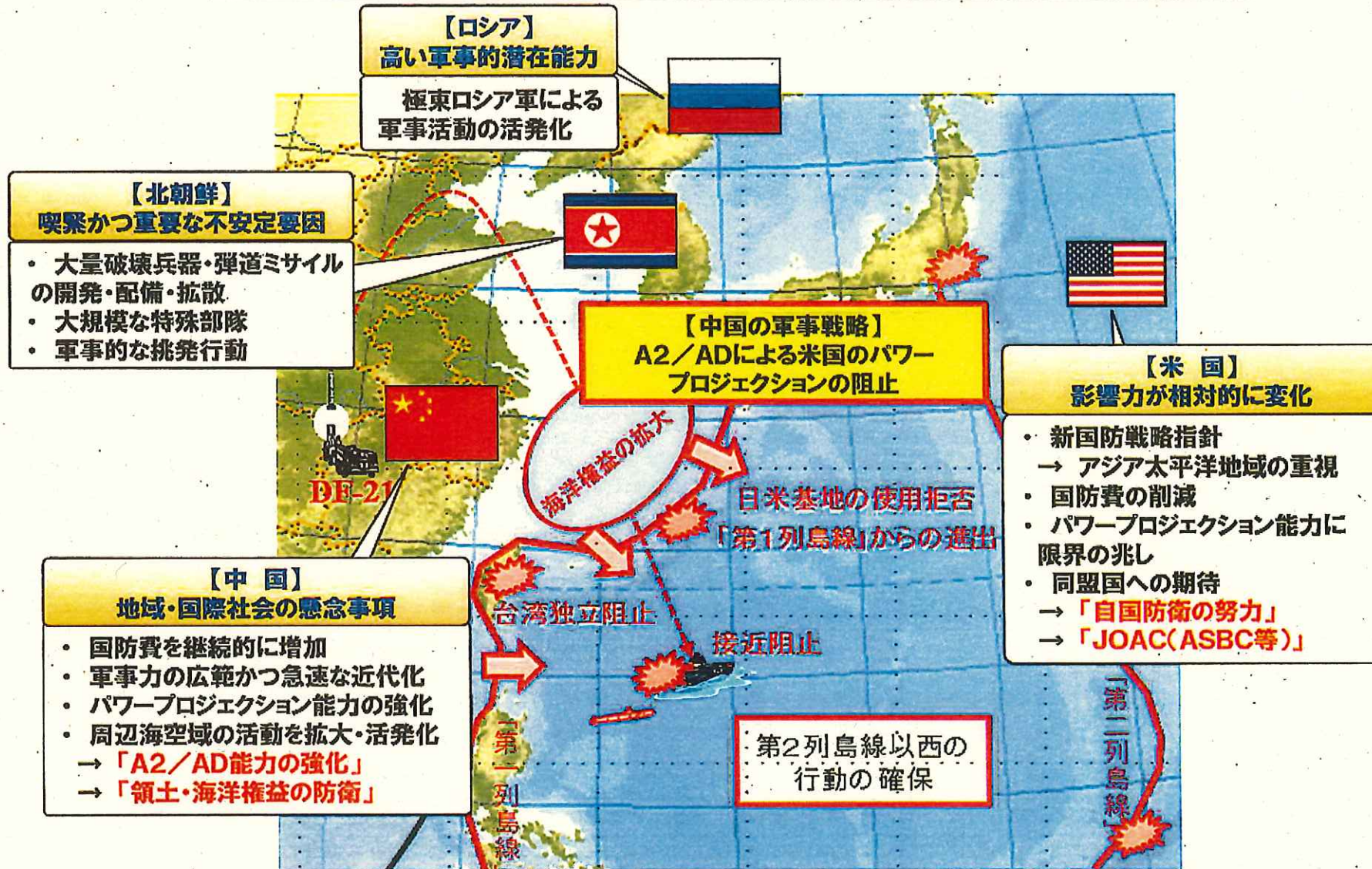
自衛隊の取り組み(中期防衛力整備計画を含む)

日米の「動的防衛協力」の方向性

「2+2」共同発表(平成24年4月27日)

日米の「動的防衛協力」

我が国を取り巻く安全保障環境

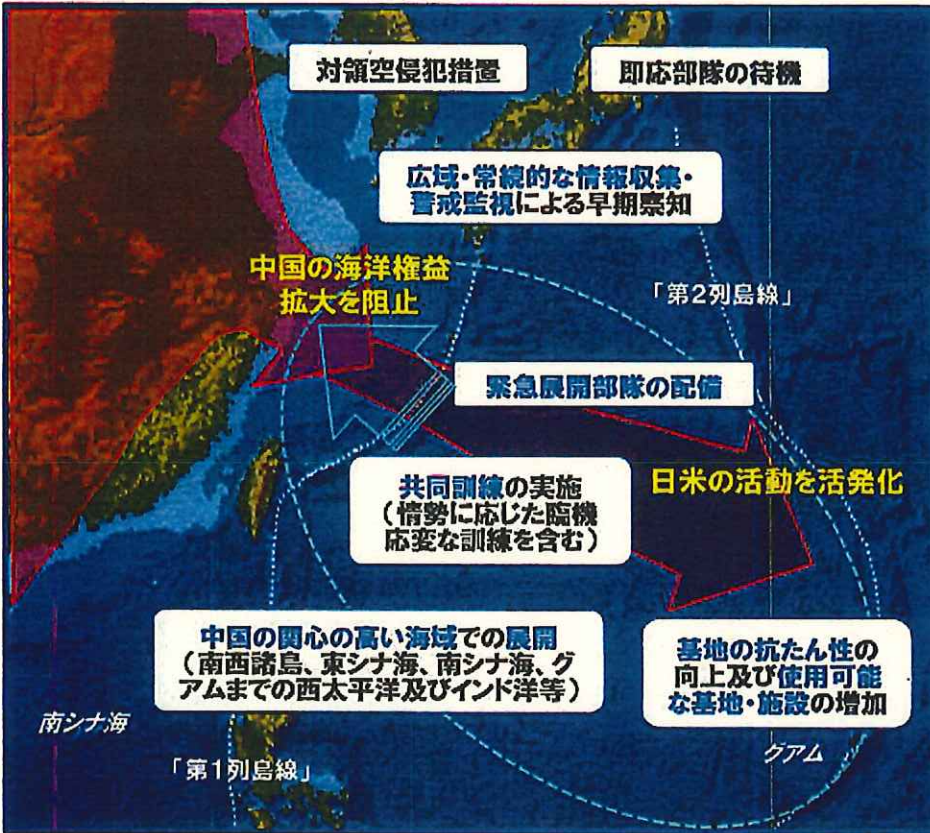


軍事的な挑発行為を続ける北朝鮮や活動を活発化させるロシアに対応するとともに、急速に拡大する軍事力を伴い、野心的な海洋進出を図る中国に対抗できる防衛力を備えることが大きな課題

対中防衛の考え方

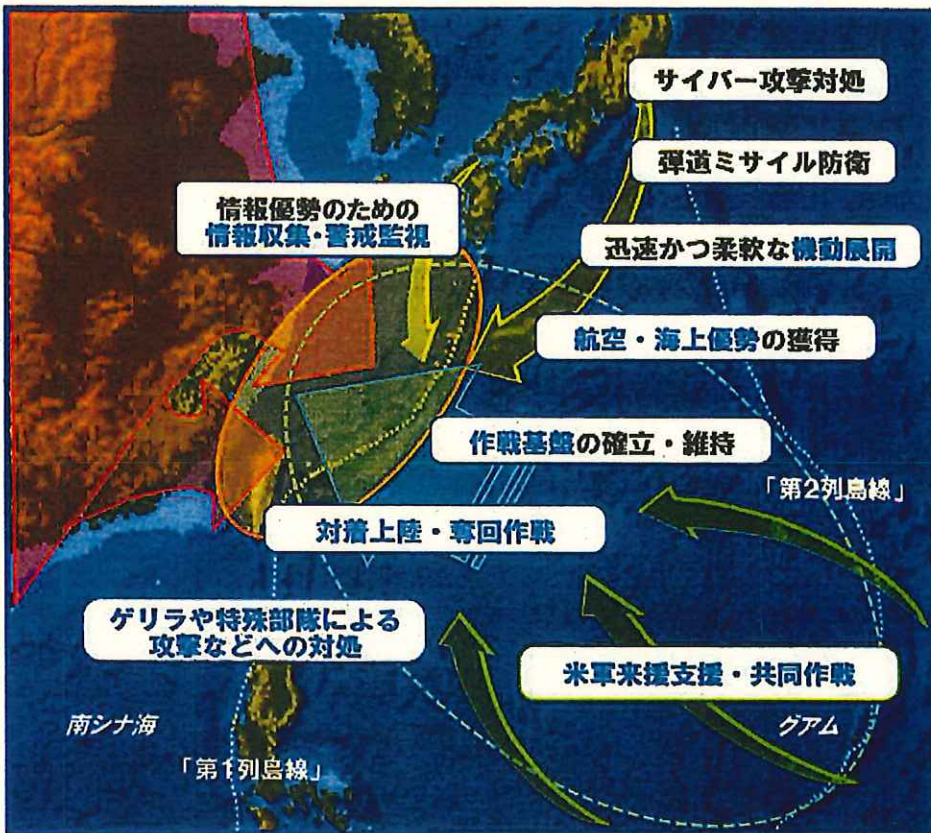
抑止(平時)

- 広域・常統的な警戒監視等の強化及び所要の対処準備による強固な防衛態勢の確立とともに、米軍との緊密な連携により、中国の影響力拡大及び武力行使を抑制
- 活動範囲は、中国の東シナ海の海洋権益拡大を阻止し、我が国の領域を主体的に保全する観点から、東シナ海が最優先地域。中国のA2/AD能力に対抗し、抑止及び作戦能力向上のため、グアムを含めた西太平洋地域での日米の活動を活発化



対処(有事)

- 日本の主体的な行動及び米軍との共同作戦をもって、これを阻止
- 周辺航空・海上優勢を確保するとともに、機動展開により作戦基盤を確立
- 米軍の来援基盤の確立を推進し、更なる米軍との共同対処
- 事態対処後は、所要の部隊をもって防衛態勢を維持



日米の「動的防衛協力」の取組

大綱・構造改革委員会(中間報告)等を踏まえた検討

今後強化すべき機能及び課題

広域・常統的な情報収集・警戒監視体制	迅速かつ柔軟な機動展開能力	航空・海上優勢のための作戦能力	基地の抗たん性及び使用可能な基地・施設	島嶼防衛のための水陸両用戦を含めた各種戦能力	BMD能力	宇宙・サイバー分野への対応	平素からの関与(Peacetime Engagement)に関する活動
<ul style="list-style-type: none"> ○ ISR能力の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 限定的な輸送能力 ○ 必要な陸上戦力の不在 (現在、沖縄防衛のための1個普通科連隊のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 防空、対潜、対水上戦能力の相対的な低下 ○ より実践的な訓練環境が必要 ○ 那覇以外に自衛隊の根拠飛行場なし 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ミサイル攻撃等に脆弱 ○ 継戦能力に制約(特に弾薬庫不足) ○ 那覇以外に自衛隊の根拠飛行場なし 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水陸両用機能の脆弱 ○ 訓練環境が不十分 ○ 通信能力、COP等の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 弾道ミサイルの性能向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○ インフラ基盤の脆弱 ○ 攻撃兆候の察知困難 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 協調国との関係強化 ○ プレゼンスの発揮(訓練等) ○ 戦略的寄港 ○ キャバビル等

自衛隊の取り組み

※中期防衛力整備計画(平成23年度～平成27年度)を含む。

<ul style="list-style-type: none"> ○ 移動警戒レーダーの展開地の整備 ○ 固定式3次元レーダーの新型への更新 ○ 早期警戒機(E-2C)の整備 ○ 沿岸監視部隊を配置 ○ 哨戒機P-1導入 ○ 艦艇航空機の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 初動対処部隊の新編事業着手(先島諸島) ○ 1個旅団(第15旅団)を改編 ○ 輸送機C-2の導入 ○ 機動展開訓練の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ F-35Aの導入 ○ 戦闘機の能力向上(F-15、F-2) ○ 那覇基地の2コ飛行隊化 ○ 潜水艦の増勢 ○ 地域配備護衛艦の機動運用化 ○ 護衛艦・潜水艦の活動基盤の強化 ○ 艦艇航空機の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 15旅団内に高射特科連隊を新設 ○ 艦艇航空機の整備(特にDDH) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水陸両用戦を含めた各種訓練の実施 ○ 対地上作戦能力の強化(F-2の能力向上) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ イージス艦・ペトリオットの能力向上 ○ 能力向上型迎撃ミサイルに関する開発 	<ul style="list-style-type: none"> ○ サイバー攻撃対処に関する体制強化、研究、演習充実、人材の育成 ○ 宇宙分野の技術動向等を踏まえた情報収集能力の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 二国間、多国間の安全保障対話、防衛協力・交流の推進 ○ 関係国との情報協力・交流の拡大・推進 ○ 能力構築支援室の新設
---	---	---	--	--	--	--	---

日米の「動的防衛協力」の方向性

<ul style="list-style-type: none"> ○ 広域監視能力の更なる強化 ○ 情報共有に関する日米の連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急展開部隊の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 航空・海上作戦の能力向上のための共同使用、共同訓練の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 兵站基盤の強化 ○ 基地防護能力の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水陸両用戦能力の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ BMDにおける更なる日米連携の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 宇宙・サイバー分野における日米の基盤強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平素からの日米による戦略的プレゼンスの発揮
---	---	--	--	--	---	--	---

「2+2」共同発表(平成24年4月27日)

(抜粋) 閣僚は、同盟の抑止力が、動的防衛力の発展及び南西諸島を含む地域における防衛態勢の強化といった日本の取組によって強化されることを強調した。また、閣僚は、適時かつ効果的な共同訓練、共同の警戒監視・偵察活動及び施設の共同使用を含む二国間の動的防衛協力が抑止力を強化することに留意した。

日米の「動的防衛協力」の取組

日米の「動的防衛協力」

□ 共同使用・共同訓練・共同の警戒監視等の拡大の基本的な考え方

- 共同使用: 抑止力の強化、南西地域に対する即応態勢の強化、訓練環境の向上及び自衛隊の運用基盤の拡大化のための拡大
- 共同訓練: 戦術技量・相互運用性の向上、抑止力の強化のための拡大
- 情報収集・警戒監視: 事態に対する迅速な対応、情報優勢の獲得及び抑止力の強化のための日米の能力を互いに補完し合う拡大

3者を併せて拡大し、相乗効果を企図

<p>○ 警戒監視活動における協力の強化(平素からの情報共有メカニズムの強化、アセットの割当等) →SF司令部における日米連携メカニズムの強化</p> <p>【グアムの活用】</p> <p>○ 警戒監視等(UAV等)での活用を検討</p>	<p>○ 部隊配置としての共同使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 陸自部隊(沖縄本島: 1コIR) →キャンプシュワブ →キャンプハンセン ・ 新たな司令部等 →キャンプコートニー 	<p>○ 訓練場としての共同使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 艦対地・空対地射撃訓練 →沖大東島射撃場 ・ 艦対空射撃訓練 →HH水域及びMM水域 ・ 空対地爆撃訓練 →島島射撃場 出砂島射撃場 ・ 離発着訓練 →伊江島補助飛行場 ・ 対戦闘機戦闘訓練 →W空域(W-172、173、179、185) <p>○ 部隊配置としての共同使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空自部隊(一時的) →喜手納基地 <p>○ 海自と米海軍との共同訓練の拡大(南シナ海を含めたアドホックな訓練)</p> <p>○ 空自と米空軍等との共同訓練の拡大(米軍訓練移転等の活用)</p> <p>【グアム等の活用】</p> <p>○ 共同使用・共同訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海自の訓練(水中処分訓練を含む)機会の拡大 →対潜訓練等各種訓練 →IED(即製爆発装置)処分訓練施設 ・ コープノースグアム等の共同訓練の拡大 ・ 恒常的な空自による訓練使用 	<p>○ 部隊配置としての共同使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 陸自弾薬支処 →喜手納弾薬庫地区(エリア1) ・ 陸自兵站部隊 →キャンプハンセン ・ 海自弾薬支処 →喜手納弾薬庫地区 ・ 空自弾薬支処 →喜手納弾薬庫地区 	<p>○ 統合訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キーンソード 機動展開から島嶼奪回作戦に至る一連の総合的な訓練(島嶼防衛、海上作戦、航空作戦、陸上作戦等) ・ ドーン・ブリッツ →西海岸での1MEF・3艦隊との水陸両用訓練(陸海自) (統合訓練化検討中) ・ 米国共催の多国間訓練へ参加拡大 →CG訓練参加への質的拡大 →バリカタ演習への新規参加 <p>○ 陸自と米海兵隊との共同訓練の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ III MEFとの共同訓練 →南西諸島のHA/DR訓練 -東防災訓練等へ参加 -海自・米海軍の艦船と共同 →南西諸島の離島侵攻対処訓練 -フォレストライトを活用 -キーンソードの枠組みを活用 -海空自、米海軍と共同 ・ I MEFとの共同訓練 →アイアンフィスト(大隊級)へ参加 ・ RIMPACへの陸自部隊参加 ・ 日米軍のHA/DR訓練 	<p>○ 日米アセット及び情報共有等の日米対処能力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 迎撃ミサイルに関する日米共同開発 ○ 将来的な部隊配置としての共同使用 ・ 富射部隊(那覇からの移転) <p>○ 訓練場としての共同使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上陸訓練 →中部訓練場(キャンプシュワブ/ハンセン) 津堅島(LST含む) 金武ブルービーチ(LST含む) ホワイトビーチ(LST含む) 伊江島補助飛行場 ・ 対ゲリラ戦訓練 →北部訓練場 ・ 陸下訓練 →伊江島補助飛行場 <p>【グアム等の活用】</p> <p>○ 共同使用・共同訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 陸自部隊の使用 ・ 機動展開から島嶼奪回作戦に至る一連の総合的な訓練(島嶼防衛、海上作戦、航空作戦、陸上作戦等) 	<p>○ 宇宙分野におけるアセットの共有、宇宙状況監視のための枠作り</p> <p>○ サイバー分野における脅威認識の共有、ネットワーク防護等に関する協力</p> <p>○ 米戦略軍への統幕連絡官の派遣</p>	<p>○ 寄港地の戦略的な選定(南シナ海周辺国等への寄港地の日米での協調した選定)</p>
<p>【凡例】</p> <p>赤字：沖縄本島における恒常的な共同使用に係わる事項</p> <p>緑字：グアム等における共同使用、共同訓練に係わる事項</p> <p>紫字：警戒監視等(グアム)の検討に係わる事項</p>							

**沖縄本島における恒常的な共同使用
に係わる新たな陸上部隊の配置**

日米の「動的防衛協力」の取組

日米の「動的防衛協力」

□ 共同使用・共同訓練・共同の警戒監視等の拡大の基本的な考え方

- 共同使用：抑止力の強化、南西地域に対する即応態勢の強化、訓練環境の向上及び自衛隊の運用基盤の拡大化のための拡大
- 共同訓練：戦術技量・相互運用性の向上、抑止力の強化のための拡大
- 情報収集・警戒監視：事態に対する迅速な対応、情報優勢の獲得及び抑止力の強化のための日米の能力を互いに補完し合う拡大

三者を併せて拡大し、相乗効果を企図

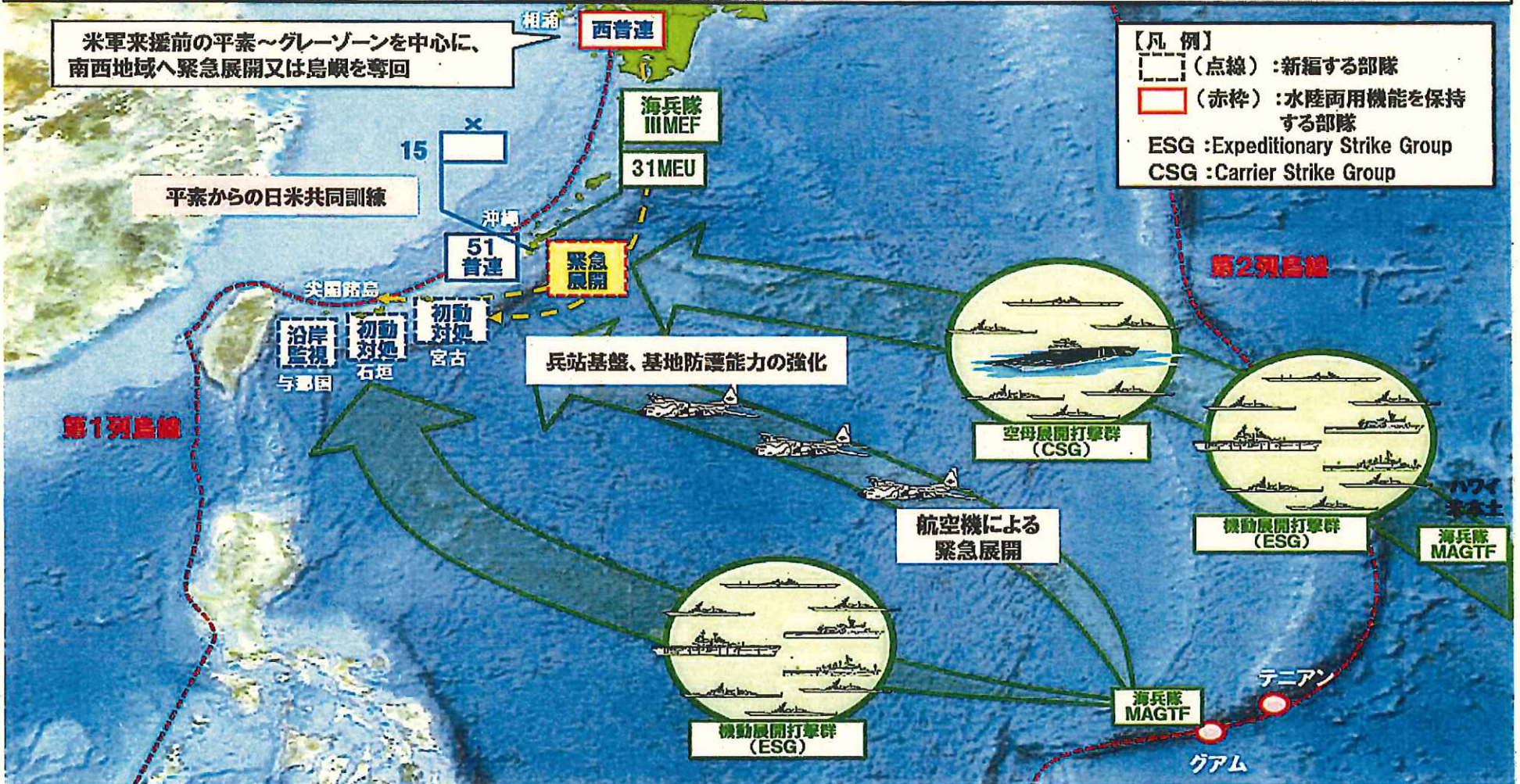
<ul style="list-style-type: none"> ○ 警戒監視活動における協力の強化（平素からの情報共有メカニズムの強化、アセットの割当等） →SF司令部における日米連携メカニズムの強化 【グアムの活用】 ○ 警戒監視等(UAV等)での活用を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 部隊配置としての共同使用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 陸自部隊(沖縄本島: 1コIR) →キャンプシュワブ →キャンプハンセン ・ 新たな司令部等 →キャンプコートニー 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 訓練場としての共同使用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 艦対地・空対地射撃訓練 <ul style="list-style-type: none"> →沖大東島射撃場 ・ 艦対空射撃訓練 <ul style="list-style-type: none"> →HH水域及びMM水域 ・ 空対地爆撃訓練 <ul style="list-style-type: none"> →島島射撃場 →出砂島射撃場 ・ 離発着訓練 <ul style="list-style-type: none"> →伊江島補助飛行場 ・ 対戦闘機戦闘訓練 <ul style="list-style-type: none"> →W空域(W-172、173、179、185) ○ 部隊配置としての共同使用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 空自部隊(一時的) <ul style="list-style-type: none"> →喜手納基地 ○ 海自と米海軍との共同訓練の拡大(南シナ海を含めたアドホックな訓練) ○ 空自と米空軍等との共同訓練の拡大(米軍訓練移転等の活用) 【グアム等の活用】 ○ 共同使用・共同訓練 <ul style="list-style-type: none"> ・ 海自の訓練(水中処分訓練を含む)機会の拡大 <ul style="list-style-type: none"> →対潜訓練等各種訓練 →IED(即製爆発装置)処分訓練施設 ・ コーブノースグアム等の共同訓練の拡大 ・ 恒常的な空自による訓練使用 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 部隊配置としての共同使用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 陸自弾薬支処 <ul style="list-style-type: none"> →喜手納弾薬庫地区(エリア1) ・ 陸自兵站部隊 <ul style="list-style-type: none"> →キャンプハンセン ・ 海自弾薬支処 <ul style="list-style-type: none"> →喜手納弾薬庫地区 ・ 空自弾薬支処 <ul style="list-style-type: none"> →喜手納弾薬庫地区 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 統合訓練 <ul style="list-style-type: none"> ・ キーンソード <ul style="list-style-type: none"> 機動展開から島嶼奪回作戦に至る一連の総合的な訓練(島嶼防衛、海上作戦、航空作戦、陸上作戦等) ・ ドーン・ブリッツ <ul style="list-style-type: none"> →西海岸でのI MEF-3艦隊との水陸両用訓練(陸海自)(統合訓練化検討中) ・ 米国共催の多国間訓練へ参加拡大 <ul style="list-style-type: none"> →CG訓練参加への買的拡大 →バリカタン演習への新規参加 ○ 陸自と米海兵隊との共同訓練の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・ III MEFとの共同訓練 <ul style="list-style-type: none"> →南西諸島のHA/DR訓練 - 県防災訓練等へ参加 - 海自・米海軍の艦船と共同 →南西諸島の離島侵攻対処訓練 <ul style="list-style-type: none"> - フォレストライトを活用 - キーンソードの枠組みを活用 - 海空自、米海軍と共同 ・ I MEFとの共同訓練 <ul style="list-style-type: none"> →アイアンフィスト(大隊級)へ参加 ・ RIMPACへの陸自部隊参加 ・ 日米豪のHA/DR訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日米アセット及び情報共有等の日米対処能力の強化 ○ 迎撃ミサイルに関する日米共同開発 ○ 将来的な部隊配置としての共同使用 ・ 高射部隊(那覇からの移転) ○ 訓練場としての共同使用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 上陸訓練 <ul style="list-style-type: none"> →中部訓練場(キャンプシュワブ/ハンセン) 津堅島(LST含む) 金武ブルービーチ(LST含む) ホワイトビーチ(LST含む) ・ 伊江島補助飛行場 ・ 対ゲリラ戦訓練 <ul style="list-style-type: none"> →北部訓練場 降下訓練 →伊江島補助飛行場 【グアム等の活用】 ○ 共同使用・共同訓練 <ul style="list-style-type: none"> ・ 陸自部隊の使用 ・ 機動展開から島嶼奪回作戦に至る一連の総合的な訓練(島嶼防衛、海上作戦、航空作戦、陸上作戦等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 宇宙分野におけるアセットの共有、宇宙状況監視のための稼働 ○ サイバー分野における脅威認識の共有、ネットワーク防護等に関する協力 ○ 米戦略軍への統幕連絡官の派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 寄港地の戦略的な選定(南シナ海周辺国等への寄港地の日米での協調した選定)
<p>【凡例】 赤字：沖縄本島における恒常的な共同使用に係わる事項</p>							

南西地域における新たな陸上部隊の配置の考え方

考
え
方

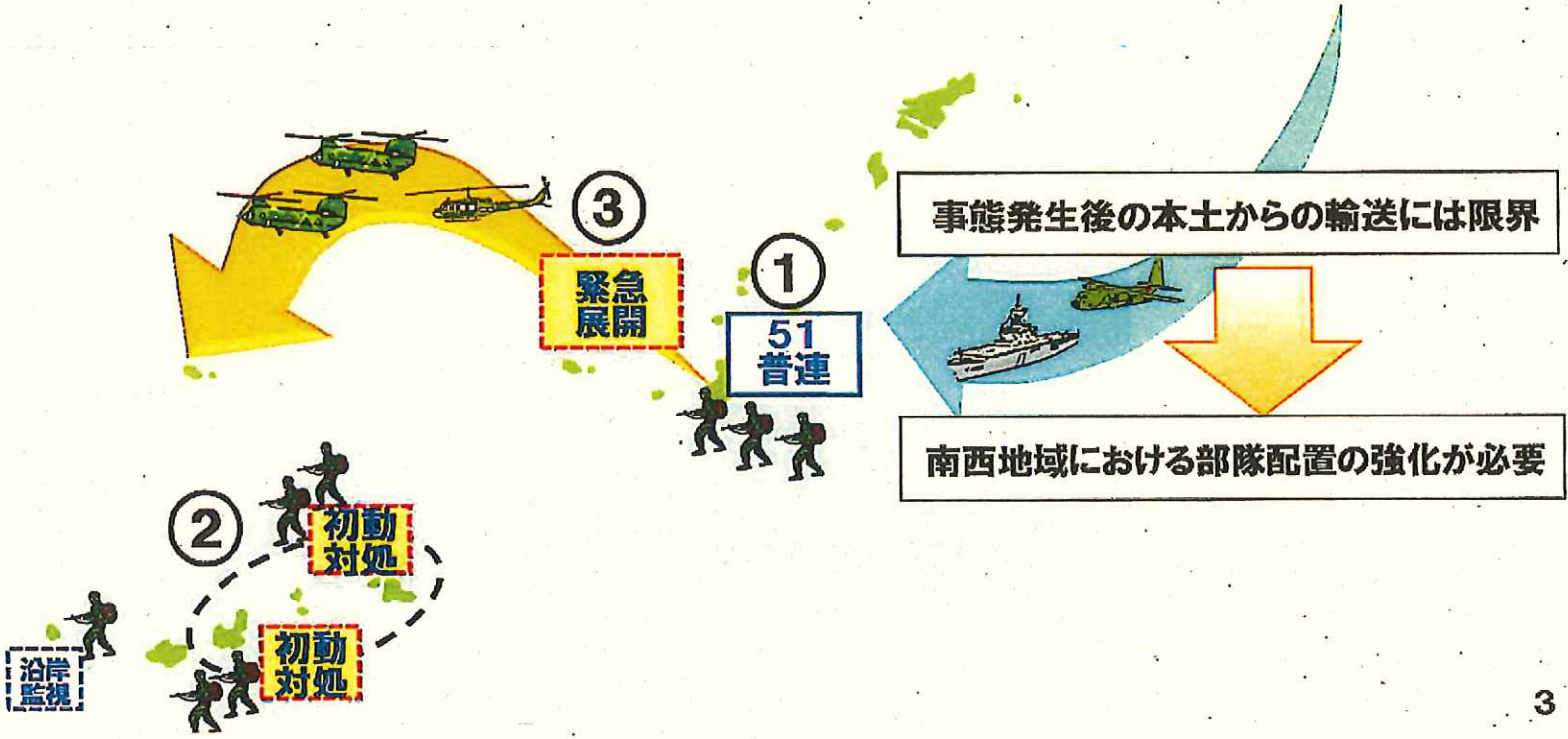
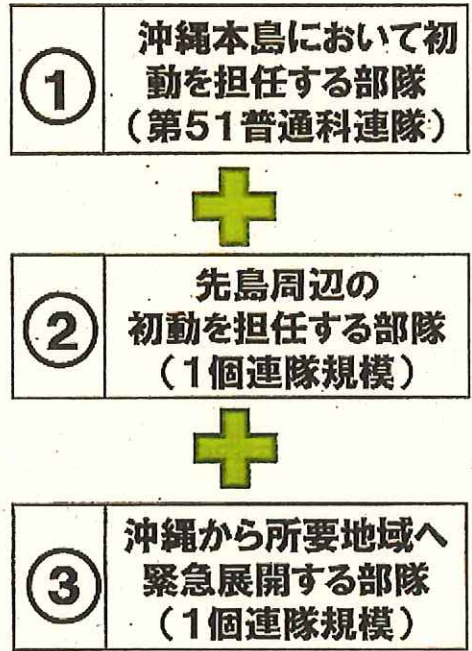
自衛隊配備の空白地帯となっている南西地域において、必要な部隊配置等により、この地域の防衛態勢を強化するとともに、平素から米軍との連携により 戦略的プレゼンスを発揮し、抑止力を強化。特に、以下の能力・機能の強化が不可欠

- 緊急展開能力
- 基地防護能力
- 兵站基盤
- 水陸両用戦能力



沖縄本島における共同使用の必要性

- 南西地域は、多くの島嶼(約970個)を有し、本州に匹敵する広がりを持つ地理的特性
- 本地域の主力戦闘部隊は、沖縄本島に所在する第15旅団の第51普通科連隊(約700名)のみであり、事態にシームレスに対応するためには、先島諸島に1個連隊規模、**沖縄本島**に1個連隊規模の平素配置部隊に加え、尖閣や先島にて事態が生じた場合に**緊急展開し初動対処部隊**として増援ができる**最低限1個連隊規模の勢力が必要**
- 本地域における必要な部隊配置は緊急時における**輸送所要の軽減**に大きく貢献
- **継戦能力を確保**するため、**基地防護能力及び兵站基盤の強化**が不可欠
- 共同使用による平素から緊密な日米連携を図ることにより、**情報の共有**、南西諸島に事態が生じた場合等の**水陸両用戦能力**を含めた**共同対処能力**を向上させるとともに、併せて**戦略的メッセージ**の効果が極めて高い。



共同使用により期待される日米の連携

□ 周辺諸国に対する戦略的メッセージ発出

- III MEF司令官、31 MEU司令官と南西集団司令官(仮)、15B長、新編緊急展開部隊長との定例的なミーティング、両司令部幕僚による会合の実施
- 沖縄における警護出動を想定した共同訓練の実施
- 沖縄における戦略的共同上陸作戦(統合)の実施

□ 地元との強固な関係構築・防災対処能力の向上

- 地元主催防災訓練等への日米共同参加
- 地元行事への日米共同参加
- 日米共同HA/DR訓練

□ 平素からの意思疎通による相互運用性の向上

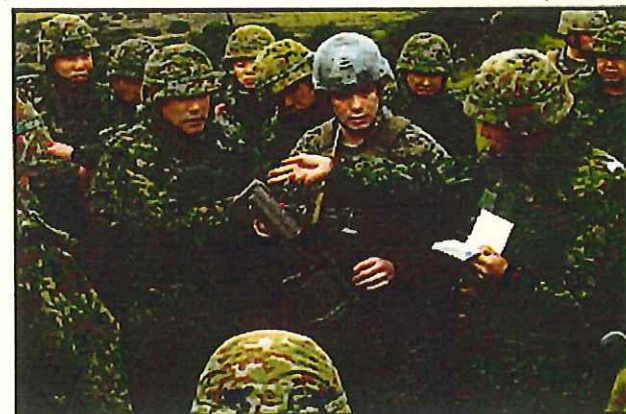
- 日常的な情報共有ミーティング
- 部隊・隊員の各階層における関係強化
- 平素から無線機(新野外通信システム等)により米側との通信を実施

□ 事態発生時の日米共同対処能力の向上

- 陸自の水陸両用戦能力の向上による相互運用性の向上
 - ・ 県内の訓練場における共同の隠密強襲上陸訓練の実施
 - ・ 米軍が実施する日々の訓練を研修し、AAV7等陸自が導入を検討している装備品等に係る教育訓練、整備支援分野及び運用要領に係る知見を獲得
- 警護出動による米軍作戦基盤・来援基盤の防護

□ 兵站基盤を強化することによる相互運用性の向上

- 南西諸島(沖縄)における兵站基盤の確保
- 日米ACSAに基づく日米共同の後方支援態勢の強化



共同使用による米側のメリット

□ 陸自と米海兵隊との相互運用性の向上により、日米の共同対処支援能力が強化

特に以下の項目が進展

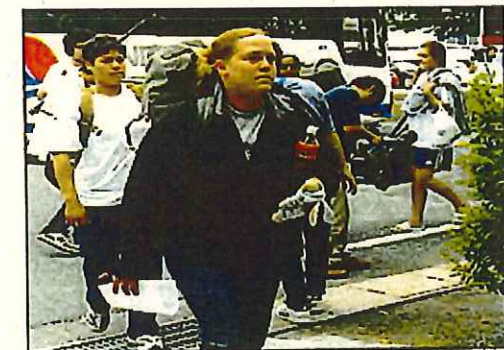
- 相互理解の促進
- 情報共有の強化
- 共同訓練等の実施の容易化
- 共同作戦計画等の検討の促進
- 後方支援態勢の強化
- 通信インフラの抗堪性の向上

□ 同一基地に所在し平素からの緊密な連携は、周辺国に対する強い戦略的メッセージを発信

□ 警護出動による米軍作戦基盤・来援基盤の防護

□ 事態発生時の米国NEO/トランスロード支援及び米軍家族の保護

□ 米軍と地元との信頼構築及び関係強化における貢献



沖縄本島における恒常的な共同使用の構想

- 新編部隊については、ハンセン、シュワブに配置するという案もあるものの、**共同使用すべき施設についてはこだわらず**
- 兵站施設については、嘉手納弾薬庫、キャンプ・ハンセンを共同使用することにより、**兵站基盤を強化**
- 訓練施設については、周辺の訓練場を活用して共同使用することにより、**南西地域における日米の共同訓練基盤を強化**

